

『新型コロナ流行前に見た建物』

須藤志津子 (釧路支部)

2020年以前は長女が東京在住な為、年に1度は東京に行き、少ない時間の中で美術館、博物館、水族館、文化財等の見学等していました。そしてもちろん美味しい食べ物の食べ歩きをするのも楽しみにしていました。2021年2022年はそんな楽しみが実現出来ない状況でしたので、今回は2019年5月に見学した建物2棟について紹介したいと思います。

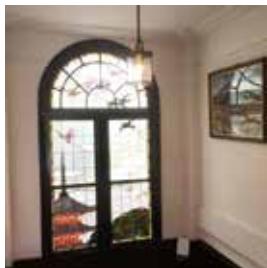
1棟目はフランク・ロイド・ライト設計の『自由学園明日館』です。この建物は羽仁吉一・もと子夫妻によって理想教育の実践を目的として設立された学校の校舎です。外に面した廊下と素敵なデザインの窓、可愛い椅子やテーブルのある食堂とこんな学校でのびのびと過ごす事が出来た子供達が羨ましい空間でした。



現在この建物は重要文化財になっていますが、見学に解放されている他、結婚式、コンサート等にも利用されています。立地が池袋なので、時間が少しあれば見学が出来ます。

2棟目は『鳩山会館』です。この建物は鳩山一郎の私邸として中学時代からの友人の建築家岡田信一郎が設計の建物です。鉄筋コンクリート造の洋館で各所に鳩やミズクなどの装飾が施されています。

印象的なのは階段の踊り場の五重塔の上を鶴が舞う図柄のステンドグラスです。又サンルームから中庭に出ると、バラが咲きとても素敵な空間でした。テレビのロケ地として「花より男子」「花子とアン」等に利用されたそうです。



東京には最近の再開発の建物、歴史的建造物等まだ沢山見学したい建物があります。早く新型コロナが終息し、のんびり建物を見学したり、美味しいランチやスイーツを楽しめる時間が来ることを祈っています。

『建築士という仕事と私』

加藤 幸恵 (札幌支部)

25歳から建築士会に入会しています。年齢が分かってしまいますが、かれこれ入会した時の年齢以上関わらせて頂いています。

仕事は、結婚・出産・育児、そして家業(寺院)の仕事もあり、今では当たり前のテレワークを20年以上前からしておりました。

このように細くではありますが、長く建築士の仕事に関わる事が出来ていることを、今はとてもありがたいと思っています。

この度、道東Bブロックの女性委員を初めて務めさせて頂く事になりました。

20代の頃は女性委員の方々の多くが目上の方達であり、バリバリと仕事をこなされている方達ばかりの為、憧れの眼差しで見ているように思います。今では年齢だけが近づいた感じではありますが……。

7月には、同じ北海道の女性委員会の方が分科会の司会をされるとの事で、東京での全国女性建築士連絡協議会に参加させて頂きました。分科会の内容は「オンラインセミナー役立つノウハウ伝授します!」という題目で、リアルとオンラインというハイブリット大会を開催した時の苦労や、工夫された事などを教えて頂きました。話を聞いて、当初は手探りでハイブリット大会の為、何度も失敗をし、それでも挫けずに進められた姿にとっても胸を打たれました。

ハイブリットのセミナーに限らずどんな事でも、失敗を恐れない事は年齢を重ねるにつれて難しくなってしまうものです。しかし日々様々な上手い出来ない事や、思い通りにならない事も、まあよしとして寛大に捉える事が出来たら素晴らしいと、考えさせられた分科会のセミナーでした。

参加の皆様、お疲れ様でした。そしてありがとうございました。